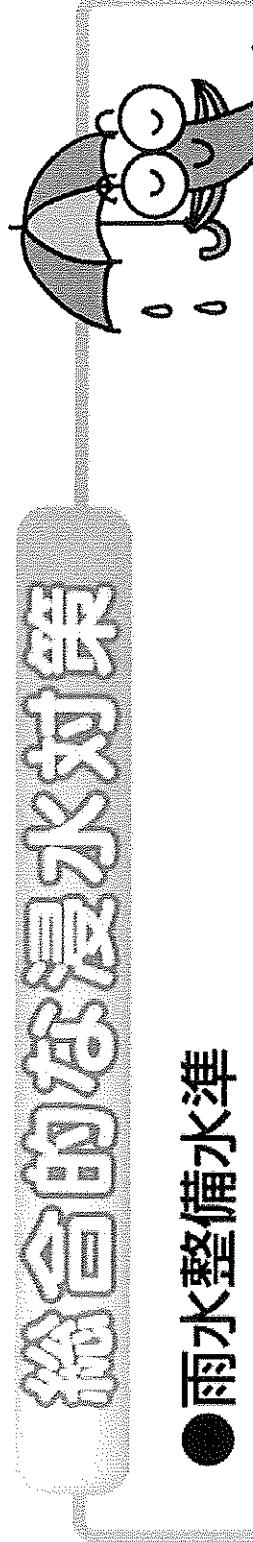
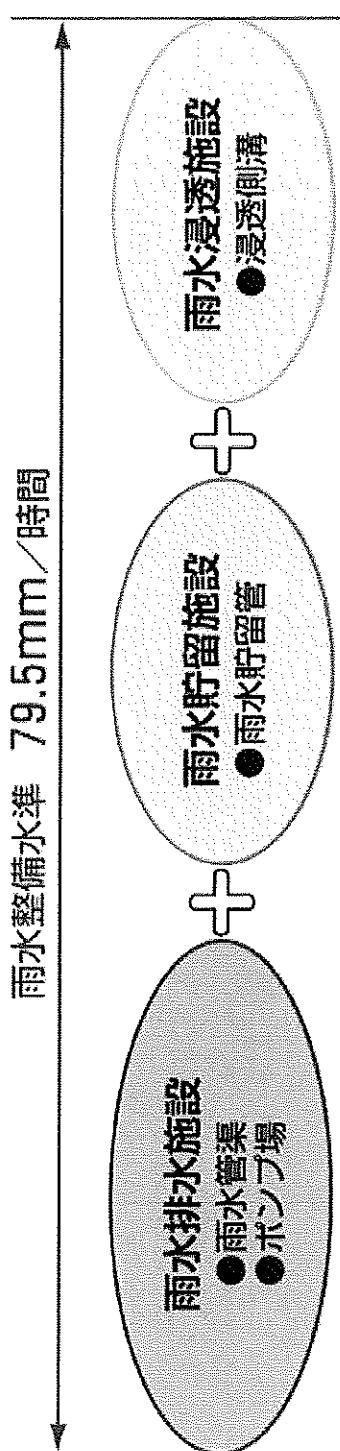


このような対策を行います。



●雨水整備水準

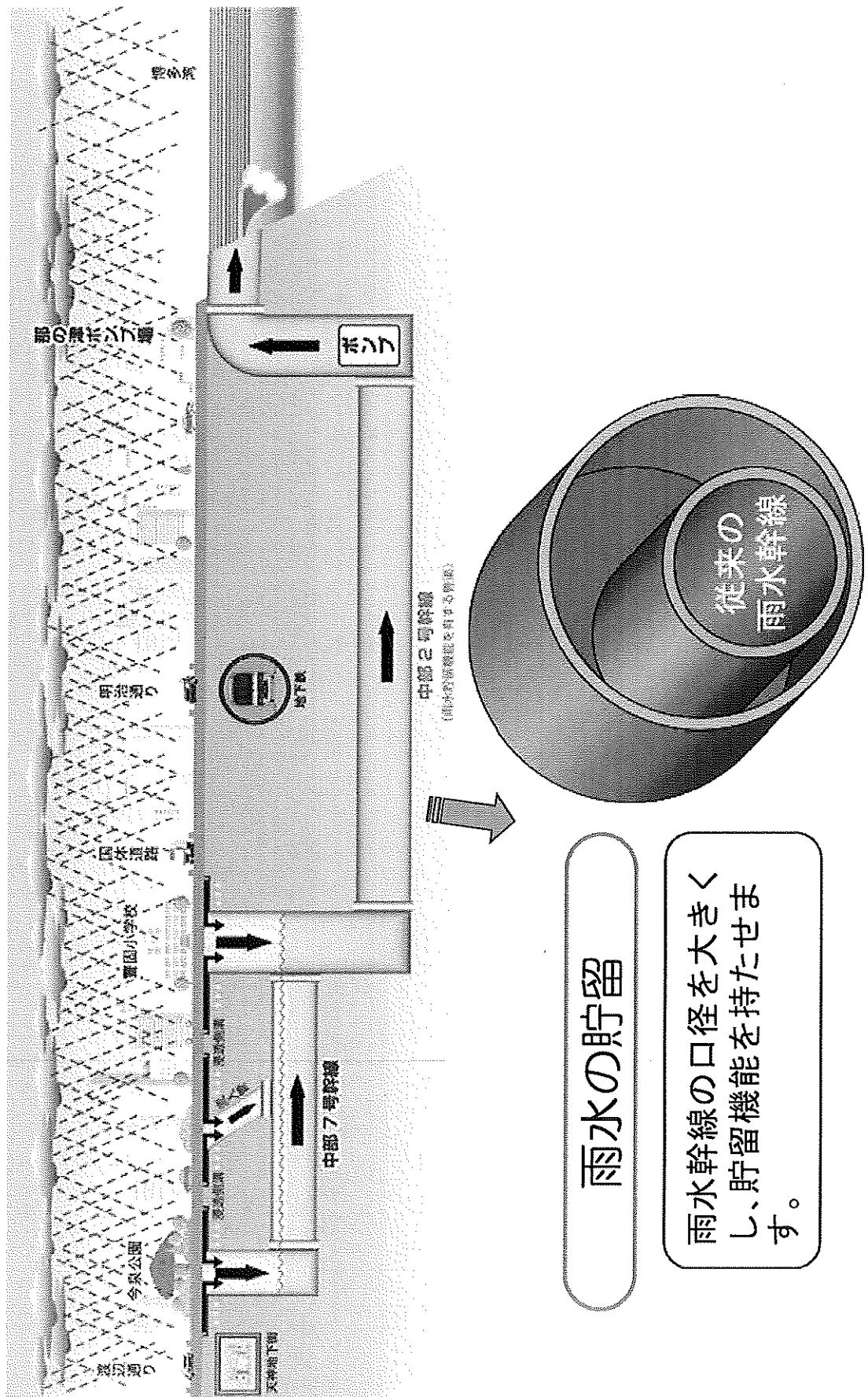
〔時間雨量〕 $59.1\text{mm} \rightarrow 79.5\text{mm}$



※雨水整備にあたっては、時間雨量 59.1mm (10年確率)に対応した施設整備を優先的に行い、平成11年6月29日の降雨である時間雨量 79.5mm を将来的な目標とします。

【参考】大雨・洪水注意報…1時間雨量 40mm 以上
大雨・洪水警報…1時間雨量 70mm 以上

浸水対策イメージ

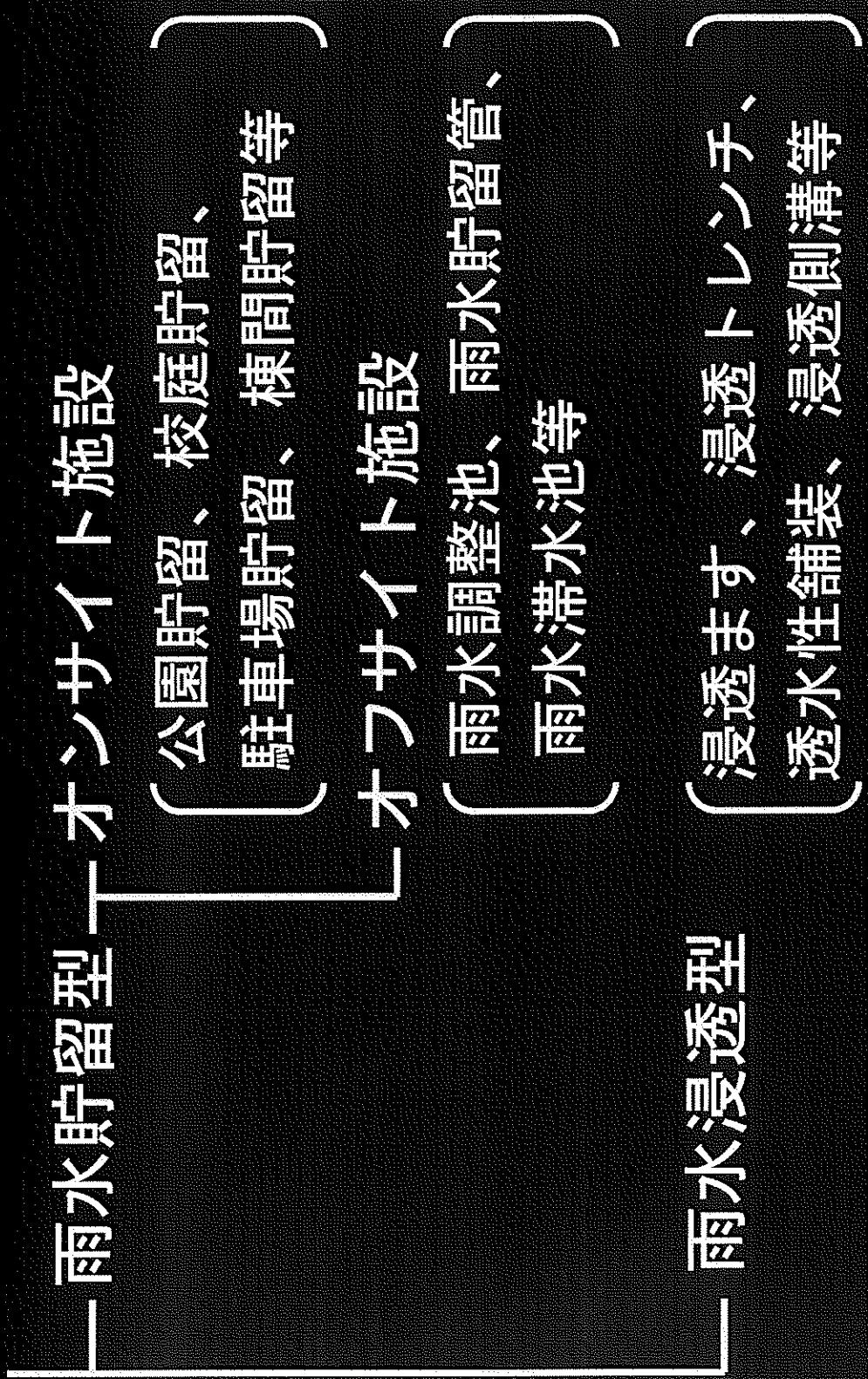


雨水流出抑制の取り組み



降つた雨を地下へ浸透、または貯留させることにより、雨水が河川や下水道へ流れでる量を減らす取り組みを進めています。

雨水流出量の抑制

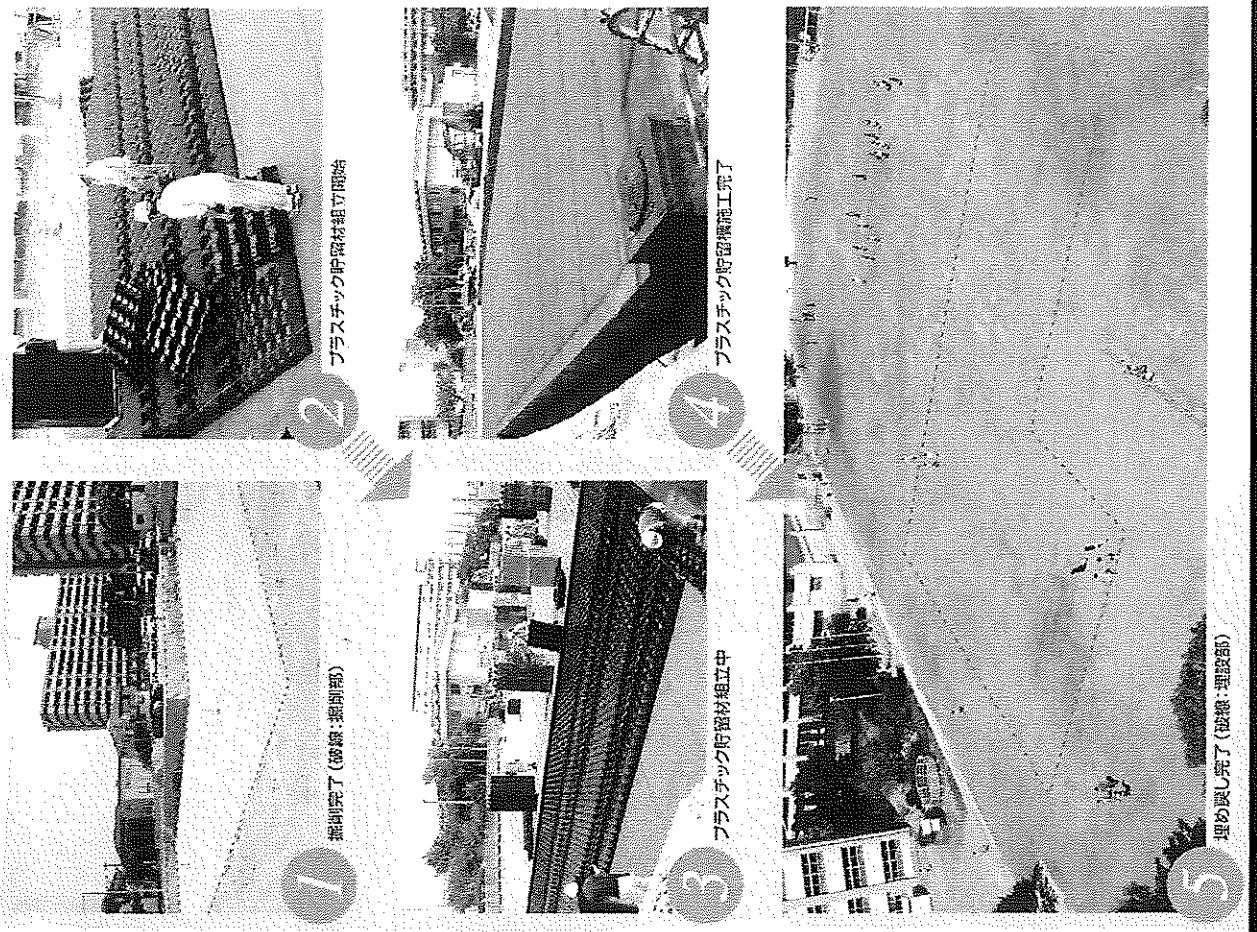
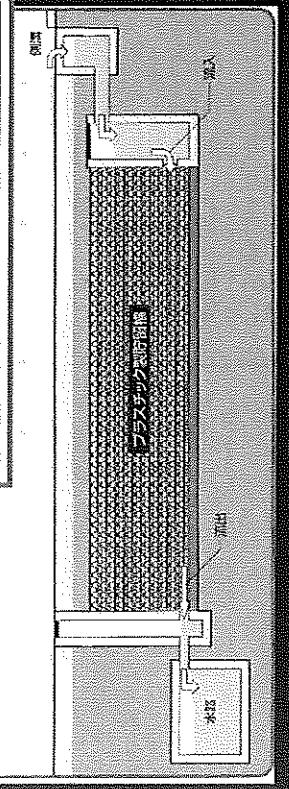


板付北小学校貯留施設



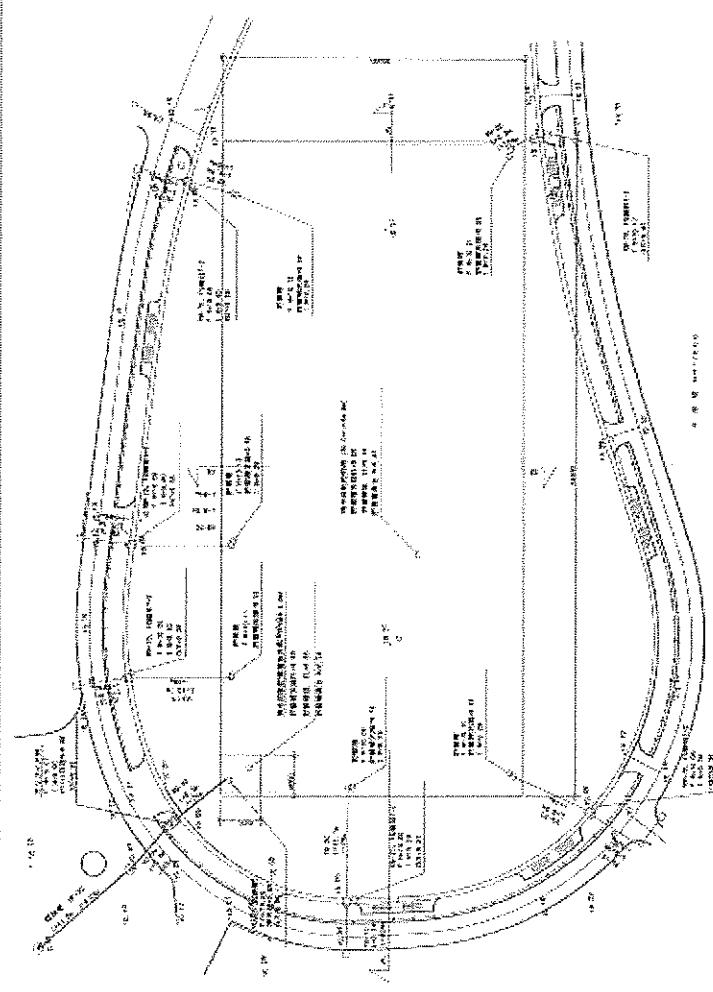
●施設の概要

貯留量	806m ³
貯留施設面積	1,010m ²
貯留水深	85.5cm
空隙率	93.4%
流出管(オリフィス)	口径20cm
学校の流域面積	1.6ha

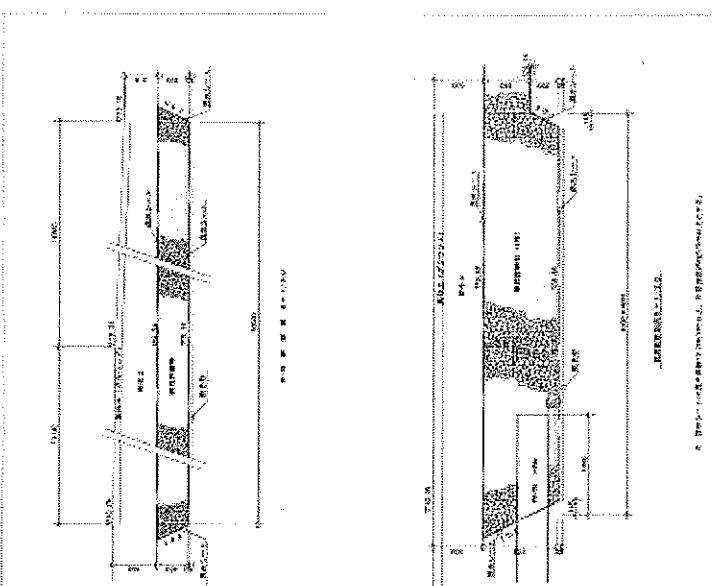


公園における雨水流出抑制施設設置の事例

雨水利用施設検討図

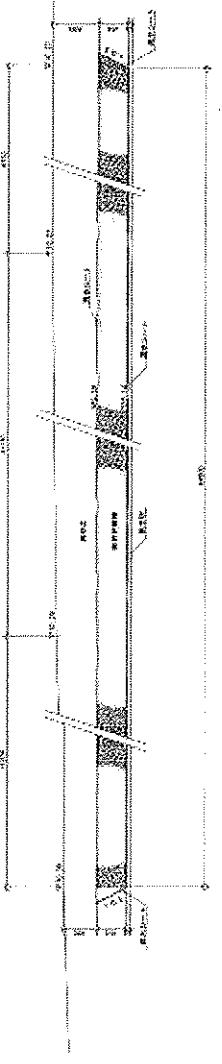


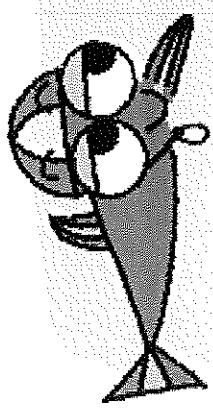
雨水利用施設検討図



参考】地下貯留槽施設（生駒郡蛭石４号）

（貯留容量）30,0m³、Sh.3.0m×W.6.0m×D.4.5m

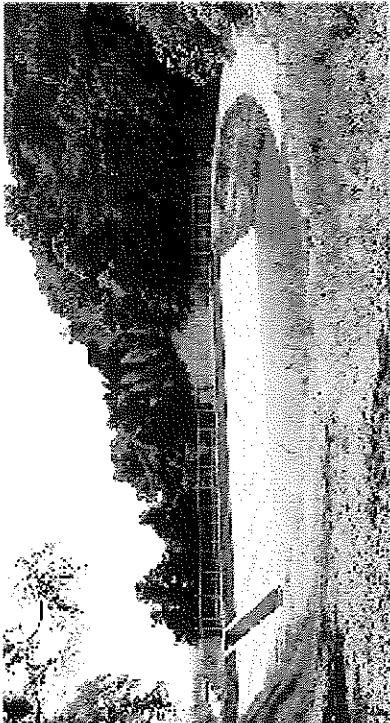
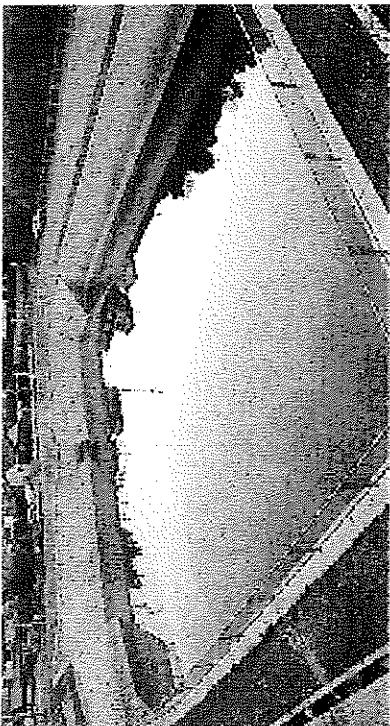


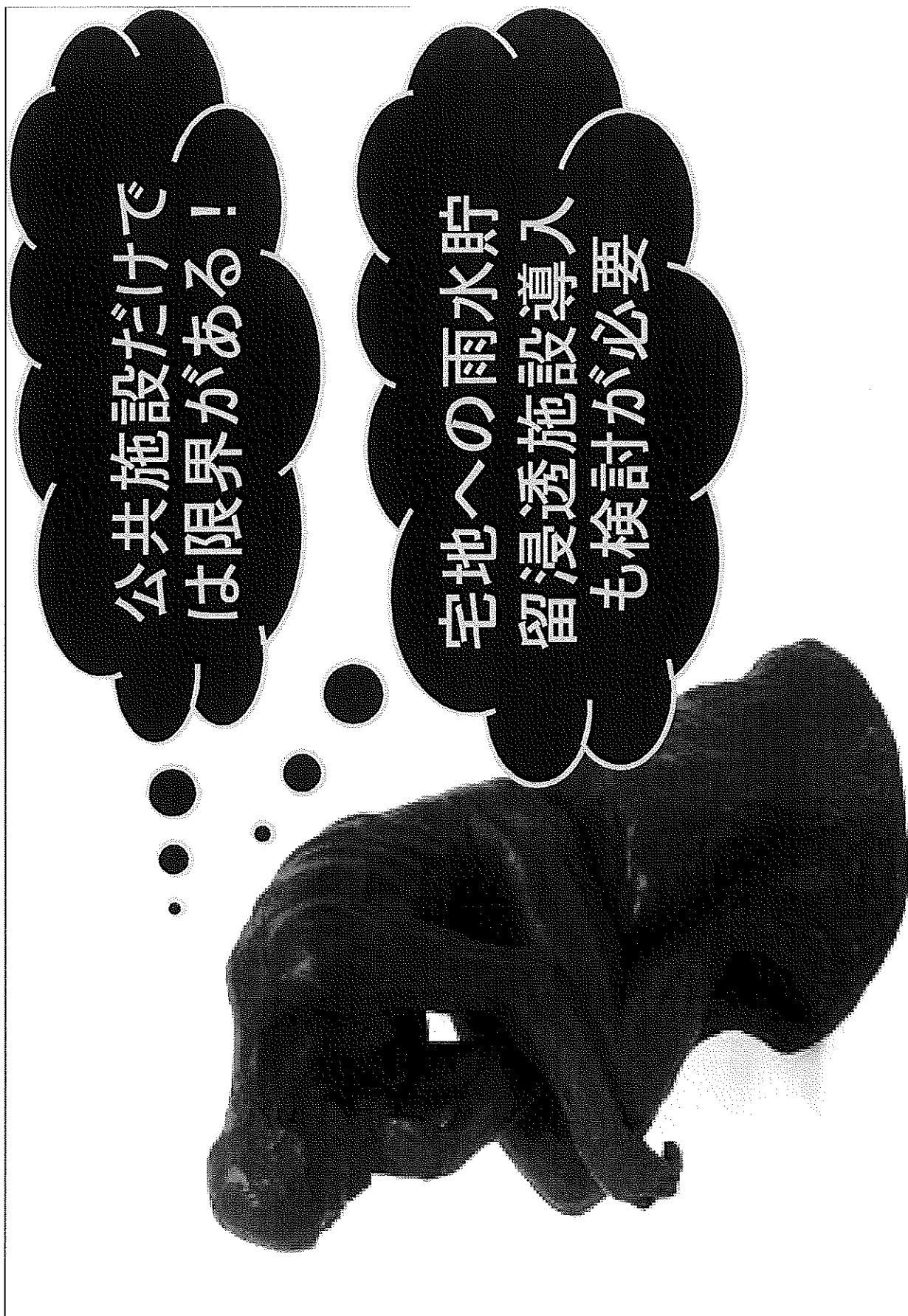


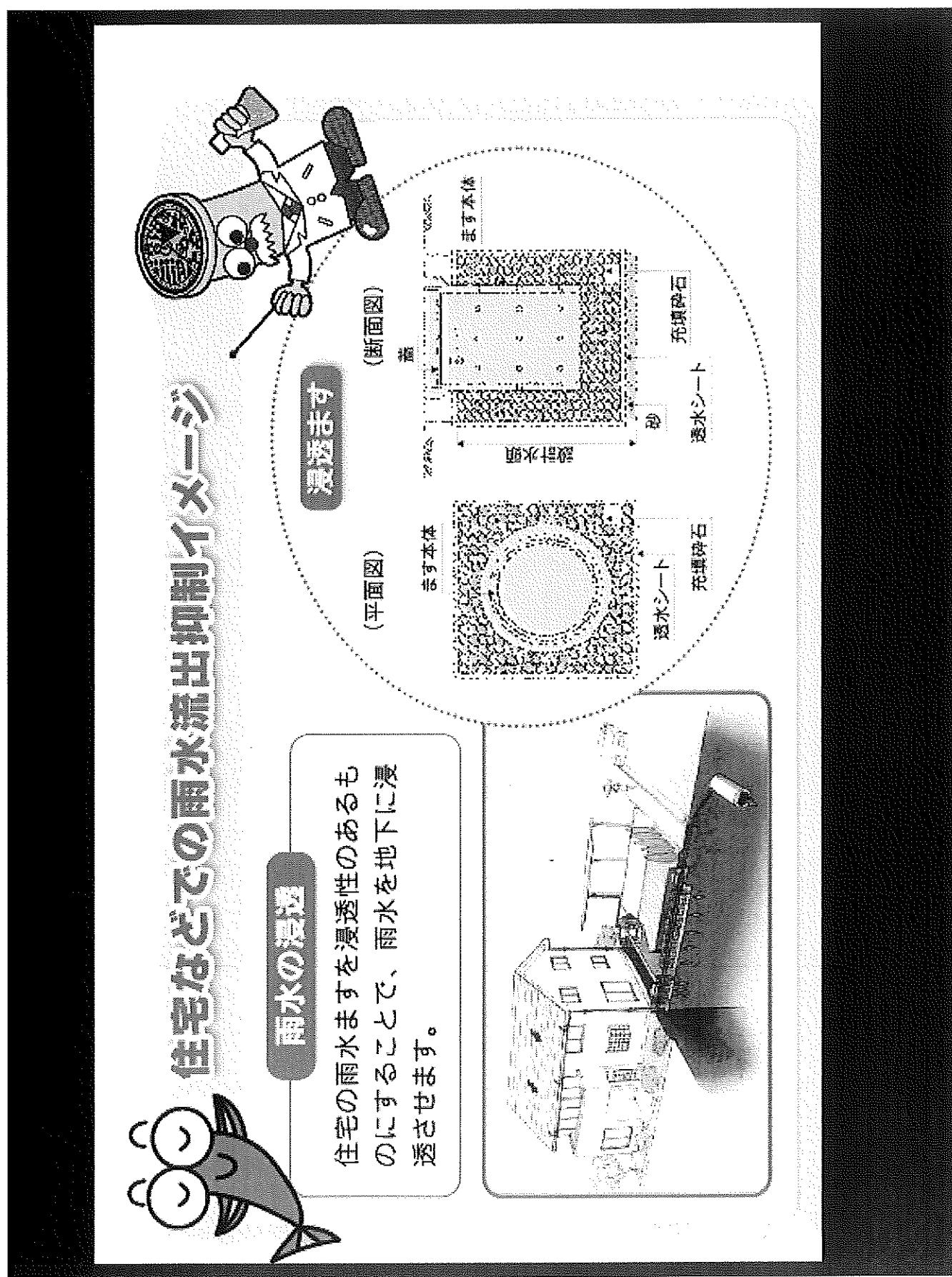
かんがい用達がなくなつた 「ため池」での雨水流出抑制

かんがい用途がなくなつたため池のうち、洪水調節効果のあるものを治水池として整備しています。降雨時に雨水を貯留し、河川への急激な流れ込みを緩和し、洪水を防ぐ機能を持っています。

長屋池
ひょうたん池

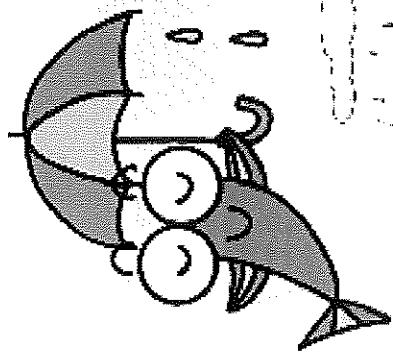






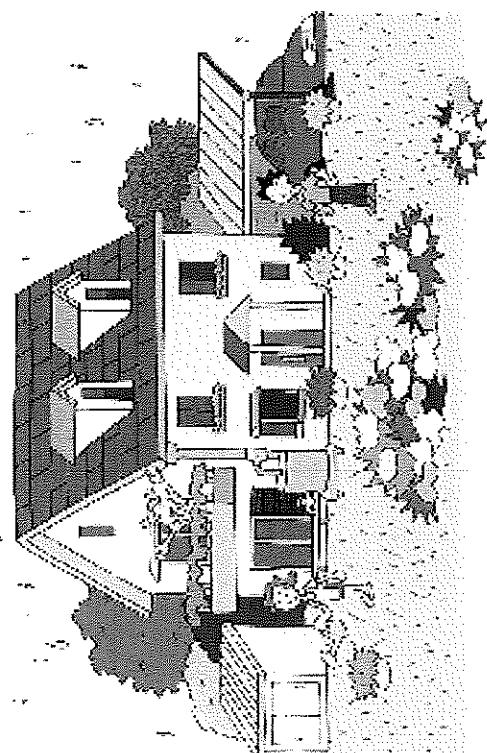
家用雨水貯タンク

雨水の利用方法とその効果



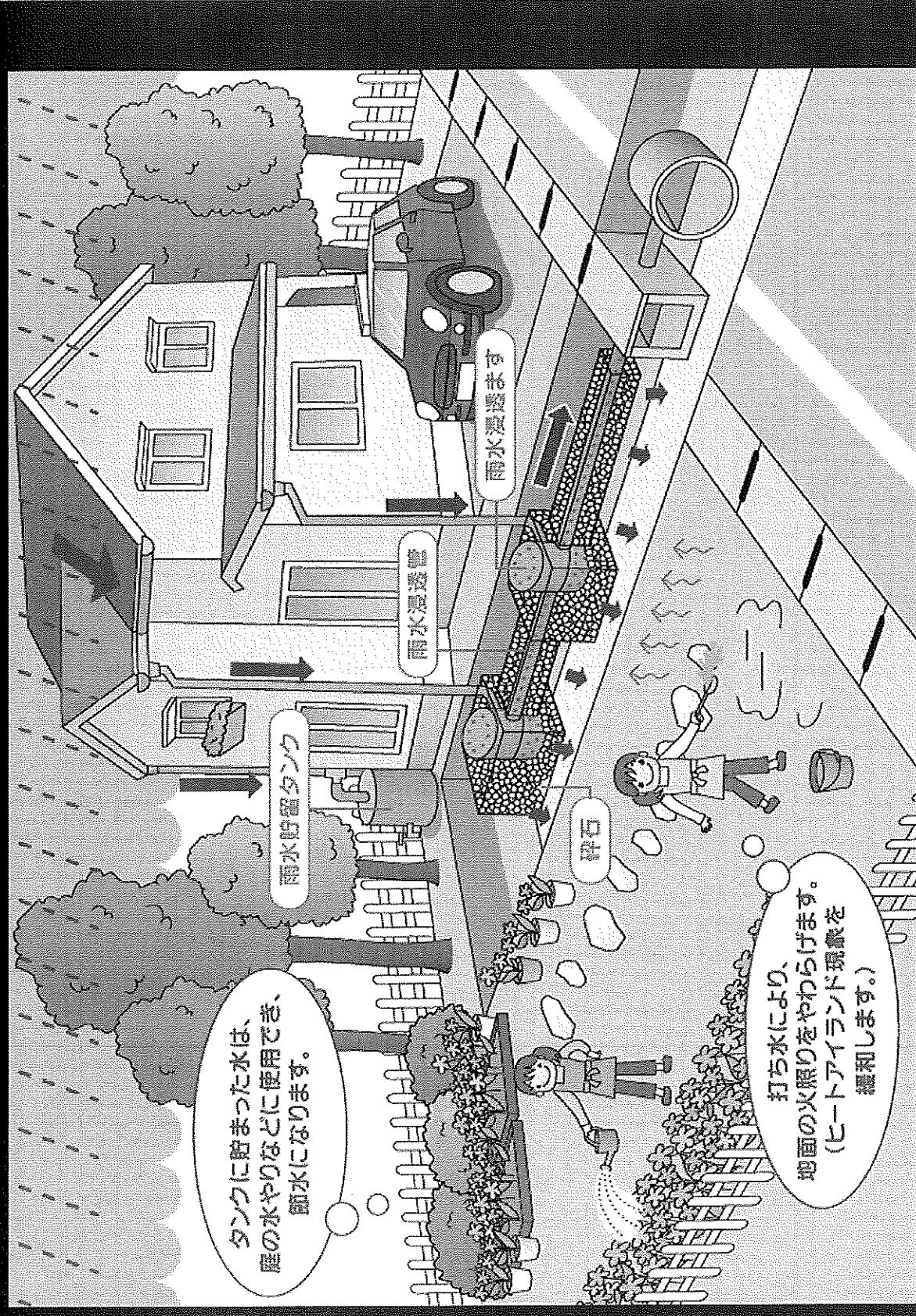
屋根に降つた雨を雨どいから集め、その水を雨水タンクに溜めます。物置、ガレージの屋根などからも雨水を集めることができます。

みんなで雨水を使えば、雨水をいつたん貯留するため、雨水が下流へ一挙に流れ出るのを防ぎ、洪水を緩和する効果があります。また、植栽への散水として利用することにより、節水になります。打ち水により、地面の火照りをやわらげ、ヒートアイランドの抑制になります。



雨水流出抑制施設制度

51



雨水流出抑制施設設置助成制度

雨水貯留タンク

雨水貯留タンク助成範囲の拡大
(H22年度より)

助成を受けることができる方

福岡市内で、土地・建物を所有する方、または
使用している方。

助成対象地域

福岡市内全域

助成対象の雨水タンクの種類

雨水を貯留するために作られ、販売されて
いる雨水タンク。

助成額

雨水貯留タンクの購入代金(本体価格+接
続するためには必要なパイプなどの価格の合
計。消費税込み)の半額。
設置費、配達費は助成の対象外。

助成上限額

1家屋あたり1度まで。

雨水貯留タンク 貯留容量	助成上限額
100～500リットル未満	15,000円
500リットル以上	30,000円



雨水浸透施設

助成を受けることができる方

市街化区域で、土地・建物を所有する方、ま
たは使用している方。

※既に建物の建っている敷地で雨水浸透施
設を設置された方(新築・増築時)に設置す
る場合は除く)

助成対象地域

市街化区域(一部の区域を除く)

助成額

雨水浸透ます、浸透管の設置工事費。
(消費税込み)

助成上限額

雨水浸透管	20,000円/基
1敷地10万円まで	7,000円/m

今後も、災害に強く、安全
で安心して暮らせる都市を
目指します。